

| | | | |
|--|-----------|------|------------------|
| 科目名 | 認知心理学特論 I | 担当教員 | 伊藤一美 |
| 科目属性 | 専門科目 C | 単位数 | 2 単位 (面接 0.5 単位) |
| <p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業概要】</p> <p>本科目で扱う認知とは、人の知的機能全般を指す心理学用語である。ここでは、認知心理学の重要命題である記憶過程を学ぶことを通して、教育・医療・福祉の場の実践に生かすための認知機能を理解することを目指す。さらに、最新の研究成果を踏まえ、ワーキングメモリの機能に着目し、知的障害を含む発達障害を中心とした障害のある人の支援のあり方について研究を深め、支援方法を検討できる力をつけることを目指したい。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の 4 つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記憶の過程を理解する 2. ワーキングメモリの機能を理解する 3. 記憶の生涯発達過程を理解する 4. ワーキングメモリからみた知的障害を含む発達障害の支援を研究する | | | |
| <p>【授業計画】</p> <p>全 15 回の授業計画は以下のとおりである。</p> <p>第 1 回 認知心理学とは何か</p> <p>第 2 回 記憶の過程</p> <p>第 3 回 短期の記憶</p> <p>第 4 回 長期の記憶</p> <p>第 5 回 ワーキングメモリ</p> <p>第 6 回 ワーキングメモリの個人差</p> <p>第 7 回 ワーキングメモリの機能</p> <p>第 8 回 日常記憶</p> <p>第 9 回 記憶の変容</p> <p>第 10 回 記憶の生涯発達</p> <p>第 11 回 認知の障害—記憶の障害—</p> <p>第 12 回 認知の障害—言語の障害—</p> <p>第 13 回 知的障害を含む発達障害を中心としたさまざまな障害と記憶の特徴</p> <p>第 14 回 ワーキングメモリからみた支援のあり方</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>科目修得試験</p> | | | |
| <p>【評価方法】</p> <p>評価は「スクーリング評価」(25%)、「レポート評価」(25%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。</p> | | | |
| <p>【教科書】</p> <p>太田信夫・巖島行雄(編). (2010). 『現代の認知心理学 2 記憶と日常(認知心理学会監修)』, 北大路書房.</p> <p>海保博之. (2005). 『朝倉心理学講座 〈2〉 認知心理学』, 朝倉書店.</p> | | | |
| <p>【参考図書】</p> <p>仲真紀子(編著). (2005). 『心理学の新しいかたち 5 認知心理学の新しいかたち』, 誠信書房.</p> | | | |